

業況は改善されつつも、依然と需要停滞感が残る。一進一退の傾向が続く見通し。

山口商工会議所では、管内中小企業94社を対象に景況調査を実施し、このほど平成20年7～9月期の実績と平成20年10～12月期見通しについての調査結果をまとめた。(回答数67社、回答率71.3%)調査は3ヶ月毎に行う。前年同月比の今期(平成20年7～9月)の状況について集計したところ、業況判断DIは、全産業、各産業ともかわらずマイナスで推移しているが、やや改善傾向にある。売上については、全業種マイナスながらもほぼ横ばい、小売業でDI値が改善した。仕入単価は、原油高騰などの影響が強く残り、DIは依然と増加傾向である。仕入単価上昇について引き続き注意が必要である。今期中に設備投資を実施した企業は全体の11.9%、来期設備投資を計画する見通しである企業は10.4%と、前回調査より設備投資意欲が後退している。今期の経営問題では、「需要の停滞」が各業種とも高水準である。原油高騰などの影響からか「原材料価格の上昇」、「請負単価の低下・上昇難」などの収益を圧迫する課題が上位に入っている。

業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数増減	前回調査比
全産業	-31%	↗	-39%	↘	-22%	↗	36%	↗	-45%	→	-4%	↗
製造業	-29%	↗	-29%	→	-29%	→	57%	↗	-29%	↗	-14%	↘
建設業	-17%	↗	-42%	↘	-33%	↘	8%	↗	-67%	↘	-25%	↘
小売業	-29%	↘	-46%	↗	-17%	↗	38%	↗	-38%	↗	-4%	↗
サービス業	-36%	→	-27%	↘	-18%	↗	45%	→	-41%	↘	9%	↗

産業別景況判断DI(前年同期比)の推移と来期見通し

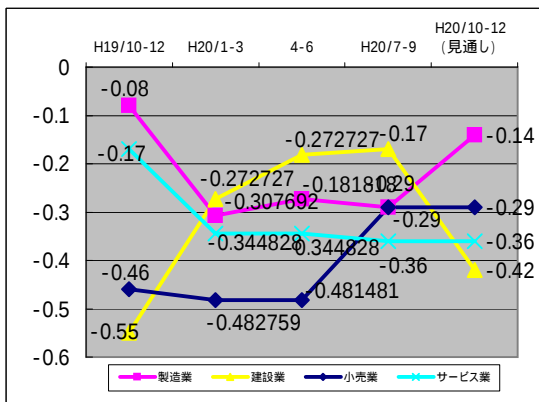
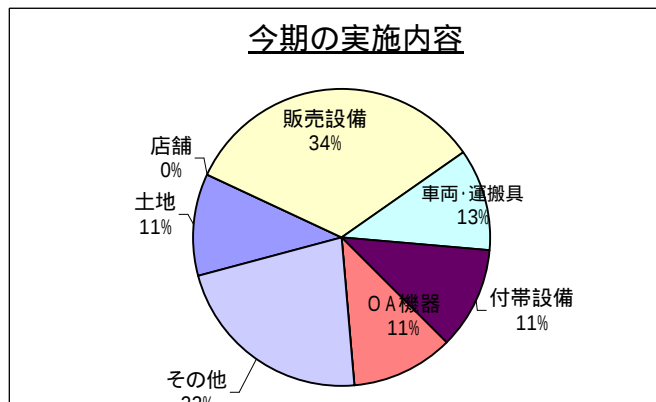


図1 今期中の設備投資の内訳(%)



全産業DI項目別比較(3期実績と来期見込比較)

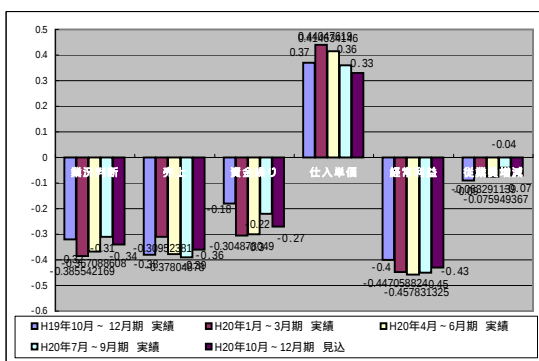


図2 経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	原材料価格の上昇	29.4%	材料価格の上昇	18.8%	需要の停滞	15.9%	需要の停滞	21.4%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難	23.5%	請負単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出	14.3%	利用者ニーズの変化への対応	17.9%
3位	需要の停滞	22.0%	取引条件の悪化	15.6%	消費者ニーズの変化への対応	13.1%	材料等仕入単価の上昇	14.3%

注) DI(状況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。